

2022年度公開シンポジウム
『郷土の記憶を舞台化する』

日時：2022年5月22日(日)13:00-16:30

会場：愛知大学豊橋校舎 記念会館小講堂

【開会】司会・近藤暁夫(愛知大学文学部准教授)

【薩摩琵琶による小泉八雲作品の演奏】13:05-13:20

『耳なし芳一』 村田青水氏(薩摩琵琶奏者)

【第1部 基調講演】13:25-14:30

小泉 凡氏(小泉八雲の曾孫、民俗学者)

「小泉八雲作品の舞台化、資源化をめぐる試み」

田村一行氏(大駱駝艦／舞踏家・振付家)

「私を踊りへと誘うもの～『舞踏風土記シリーズ』の創作」

【第2部 パネルディスカッション】14:40-16:30

『郷土の記憶を舞台化する』

パネリスト：小泉 凡氏、田村一行氏、吉野さつき氏(アーツ・マネージャー、愛知大学文学部現代文化コースメディア芸術専攻教授)、大橋 玲氏(穂の国とよはし芸術劇場PLAT 事業制作部)

コーディネーター：内浦有美(総合郷土研究所研究員／ばったり堂代表・「豊橋妖怪百物語」著者)

<企画趣旨>

歴史、自然、信仰、人、風俗、産業、食、におい、伝統、祭、文学、口承、喜怒哀楽…。私たちは『郷土の記憶』をどのように享受し、受け継いでいるのか。大切な人に伝えたい、後世に残したい。

『郷土の記憶を舞台化する』、その意味、込める思い、そこで何が起こるのか。小泉八雲の曾孫であり民俗学者でもある小泉凡氏、舞踏家・振付家であり全国各地でその土地を題材とした市民参加作品の創作を続ける大駱駝艦の田村一行氏、アーツ・マネージャーであり愛知大学教授でもある吉野さつき氏、穂の国とよはし芸術劇場PLAT職員の大橋玲氏をゲストに迎え、『郷土の記憶を舞台化する』ことをめぐる基調講演とパネルディスカッションを開催した。